

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



## 裂果のメカニズム



- 収穫を間近に控えたブドウが連日、長雨に遭うと**裂果**してしまいます。
- 水分とブドウ果粒の裂果との関連について**簡単な実験**を行いました(図)。
- コップにキングデラの果粒10粒を入れて**濃度の異なるシヨ糖溶液**を加え、その後7日間、裂果率を測定しました。
- 浸漬2日後から裂果は始まり、経過日数とともに増加しました。またシヨ糖濃度が**低い程**裂果は激しくなりました。
- これらの結果より、裂果は果粒外からの浸透圧による**水分の流入**が原因となり、果粒内外の濃度差が大きいほど裂果率は高まると思われます。
- **雨水処理**や**適期収穫**が防止には重要です。

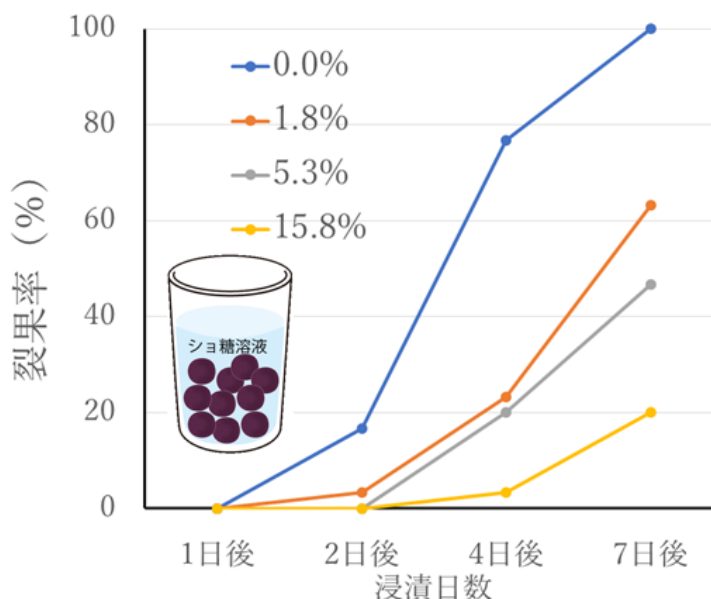


図 浸漬後の果粒裂果率(シヨ糖溶液)



## べと病防除に息切れしないで



- べと病は発育適温が**20~25℃**と比較的低く、**雨水**を通して遊走子が葉裏や果房の**気孔から感染**する病害です。
- 今年の梅雨入り(6/14)から6月末日までの甲府における降水量は合計112.5mm(平年76.2mm)と**やや多い**傾向です。
- 一昨年、昨年は**梅雨後半に長雨**が続き、べと病多発の原因となりました。
- 降水量の多い年には、べと病の防除間隔は**10日以下**と短くしましょう。
- **潜伏期間は4~5日**と非常に短いので、少しでも症状を見かけたら、直ちに**ジャストフィットフロアブル**等の治療剤で防除して下さい。



図 べと病発生果房(赤嶺)